

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 三郎丸 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

教科に関する調査(国語、算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

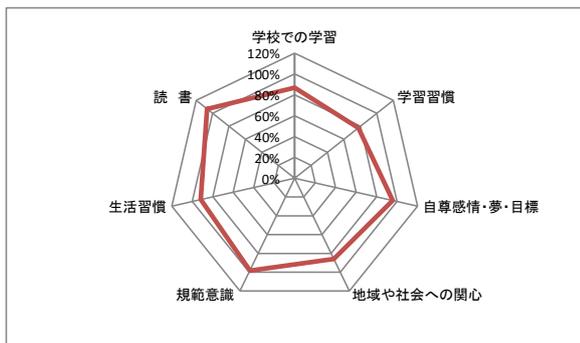
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・無回答率は全国平均に比べて低く、問題に取り組み、解答しようという意欲は高い。 ・「書くこと」に課題がある。日頃から目的をもって文章を書く習慣化が必要である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題	
	努力が必要な問題	目的に応じ、必要な情報を見付けたり、要約したりする問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	・無回答率は全国平均に比べて低く、問題に取り組み、解答しようという意欲は高い。 ・単純な計算問題では全国平均を上回る正答率であるが、複数の事象から必要な情報を導き出して考える問題になると、正答率が下がる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	時刻や速さ、三角形の面積、棒グラフから項目間の関係を読み取る問題	
	努力が必要な問題	複数の図形を組み合わせた図形の面積など、読み取って考察する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で学習の計画を立てること、平日や休日に学習すること」の割合が全国平均よりも低く課題である。 ・「学校へ行くことが楽しい」と回答した児童の割合は全国平均を大きく上回っている。学校での友人関係やたてわり活動、委員会活動などがよい影響を及ぼしていると考えられる。 ・「人の役に立つ人間になりたい」の項目は全国平均を10ポイント上回っているものの、「将来の夢や目標をもっていますか」の項目は全国平均を下回っている。キャリア教育を充実させ、具体的な職業のイメージや目標をもたせるようにする。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・高い読書率を生かして語彙を増やし、言葉の意味を問う内容を学習の中に取り入れる。それにより言葉の特徴や使い方に関する力を伸ばしていく。
 ・2つの事象から考察して、問題を解く力をつけていく。題意を正確に捉えるために認知能力トレーニングを継続して行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・ゲームをする時間が多く、自分で計画を立てて学習ができないという結果をふまえ、1日の生活時間の理想を決め、実態を記録するなどの工夫をし生活習慣を整える。また、記録を振り返る時間を設け、自立に向けた生活習慣の改善を図る。